

B-49 婦人外衣用編地の視覚風合について

蝶理 ○村田早雪 奈良女大家政 丹羽雅子 古里孝吉

目的 視覚が編地の風合の判断にどのように影響するか、また視覚によって布の物理特性はどの程度感知されているのかを知る目的で、本研究を行なった。風合の判断は、消費者の判断を知ることによって主眼をおいた。

方法 試料は市販されている婦人外衣用編地約300種から、表面特性が広い範囲に平均に分布することを条件に30種を選んだ。色は、グレイ、ベージュなどの中間色とした。組織は、平編、リブ編、ポンチローマとし、素材は合繊8種、ウール15種、ウールと合繊混7種である。

物理量の測定は、KES-FTシステムで、引張、曲げ、圧縮、せん断、摩擦、表面粗さを測定した。また光沢計を用い反射率、透過率を測定した。

官能検査の被験者は女子大生20名で、20 cm × 20 cmの試料を用い、1回目は視覚のみ、2回目は手を触れて判断させた。5段階評価を行ない、評価の形容詞は、物性に関連するもの、主観に関連するものを平均して、25個とりあげた。

解析は、SD法で各試料のもつ風合イメージのプロフィールを知るとともに、各物性と形容詞間の相関をみた。

結果 視覚による風合の判定結果には、編目密度、表面粗さ、厚さなどが対応しており、物理特性は視覚によってある程度予測されることがわかった。